



# コロナ禍でぎびしい運営

8日、障害者福祉サービスの現状について、施設代表者等と市議会教育福祉委員会（居川大城委員長ほか6人）は障害者施設をめぐる現状や農福連携について意見交換会をしました。施設からはきびしい運営状況、人材確保など様々な課題について意見がありました。

市役所で夕方から開催し、問がありました。

自己紹介のあと各施設の現状や課題、いまの思いなどの発言に、議員からは質

策や現状打開のため模索している状況がだされました。ある施設長は「最近の

ニューズで、高齢者介護の施設で、利用者が訪問したヘルパーから、新型「コロナウイルス」に感染し死亡した。

このことで利用者の家族からヘルパーの所属する事業所を相手に、安全義務違反の理由で訴訟を起こされている。判決はまだであるが、いつこのような状況に遭遇するかわからない」と危機感をにじませました。別の

代表者は「利用者が家族の

帰省等で県外の人と接触するので一時的に休んでもらっている。そうすると事業所の収入も厳しくなる」と。同じような意見は「車の部品を製造しているが売り上げが3割落ちたので、午前中だけの作業にした。新たな仕事を探さないといけないと考えているが、

企業も厳しくむずかしい。「人手が不足している状況はあると思うので、どこが不足しているのか」とどこかをつかみ切れていない。どこかの機関が情報提供など動いてくれるとありがたい」と述べていました。

施設職員の人材確保について議員からの質問に、「人材は少ない。給料が安い。福祉系の学校への進学する状況も少ない。」「職員配置基準をやつとクリアできる状況で人材育成の環境を作り出せない」などの意見がありました。

か進まない」と発言。また別の施設長は「農地を借りて法人で作物を作るのはノウハウがないとできない。農家へのお手伝いは十分やつていける。施設外就労とすれば施設側にもメリットがある」という意見がありました。施設の中には「製材所で働いている」とか「うめの収穫時期に働いた」など実践

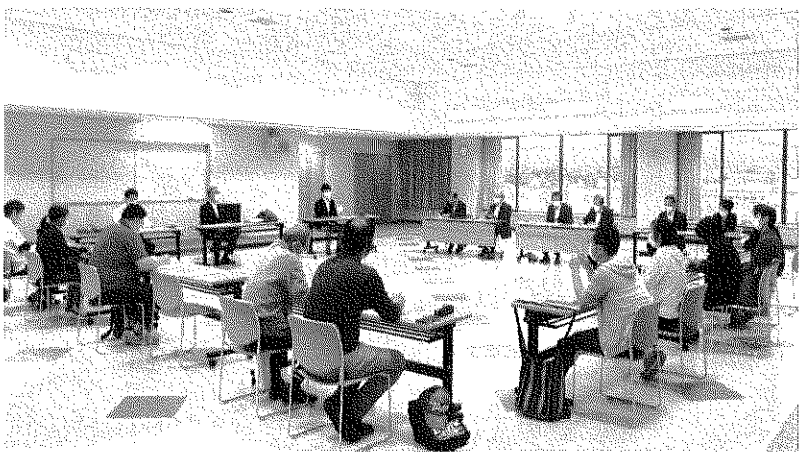
例も出されました。

市は農福連携をこの2年間、関係者と推進協議会で議論をしてきました。今年からマッチングセンターを設置して取組むと21日議

会で報告しました。



## 市議会教育福祉委員会と障害者施設代表者 障害者福祉サービスの現状で意見交換



### 農福連携で障がい者の働く場の確保と希望を

意見交換の中で、農作業と障がい者の仕事確保について、参加していた施設代表者は「大分県は農福連携事業に力を入れてい

ほしい」と要望。また別の施設長は「農業はJAの部会とつながるとスムーズだと思うが、そこまで行きつかなない」という意見がありました。

大谷市議はなぜ進まないのかと質問。施設長は「農家の方の理解が得られないという壁があった。実際はやれることは沢山ある。しかし話はなかなか

行政と民間と施設がリンクしていないと感じている。施設側の発信も足りない。地域の理解が必要なので発信の場を作つて

ある。しかし話はなかなか

時期に働いた」など実践